

●竹蛇籠の底辺部の製造完了する 12日

福井さんと大釜さんが大奮闘。8日に11基を仕上げたので、残り32本の底辺に漕ぎつけました。その折7本目の縦柱の追加と胴巻き竹の取り付け場所が大変難しく胴巻きの2周目で行き詰まってしまいますので、誰でも胴巻きが使いこなせるように底辺を組み上げた時に取り付けることにしました。これで大きな悩みや不安を取り除くことが可能になります。これからは竹同士が抑えあい、固めあって前に進めることとなります。困ったとき、戸惑ったときには、完成品のモデルを見ながら編み上げることが出来ます。随分と苦心を重ねて、やっと、ここまで到達できました。これで皆さんに不安なく安心して編んでいただくことが出来る段階に到達できました。残り32本の編み上げになりました。これまでに苦心惨憺の取組を行っていただいた福井波恵さん大釜智光さん深田三郎さん、そして森島保さんの苦労の積み重ねがやっと成果につながるようになりました。2015年、2017年して今年2018年の竹蛇籠3回目の製作に至って到達できたのです。次に、いかに小型にまとめ上げられるか、規則正しく美しく均一な作品になるかということです。誰が作っても均一な作品となるよう、さらに努力が必要です。どんなに望んでも32本を組み上げると終了完了となってしまいます。そう考えると1本1本を大切に編み上げていかなければと気が引き締まります。なんとしても竹蛇籠の技術をマスターしたいと希望される皆さんは、残り少ないチャンスをしっかり生かしてください。これから10月末日までに完了するつもりで連日午前9時30分からおおよそ14時ごろまで製造をおこなっております。場所は木津川玉水橋東詰め 道路下の広場です。JR奈良線玉水駅から西へ100mの徒歩で木津川堤防に上がれます。そして玉水場を目指してください。熱心さあふれる意欲ある皆さんのご参加を歓迎いたします。手袋、弁当持参、作業服を用意してお越しくください。おまちしています。完了次第打ち切りといたします。

●事務局会議から

10月15日付けのマラソン実行委員会からの回答文書「第36回京都木津川マラソン大会に向けた支援について」が届きました。10月5日付け「第36回京都木津川マラソン大会に向けた協力依頼について」の文書には、契約方式についての返答又は回答でなければ受け取れないと返送しました。それに基づいての返答と思われませんが、里山の会の要望には答えないで、「…支援について」という表題でした。10月5日とは大きく後退したものになっていました。ここ数回のやり取りで「里山の会の主張」と「マラソン実行委員会の受け止め」にかなりの差異が認められました。その上に立って約3時間に亘る事務局会議の議論の末に、私たち里山の会の主張は聞き入れないものであることも理解しました。このまま時間を費やしても不可能と判断し、里山の会は駐車場の取組や選手輸送手段について「選手のために」という一点で第36回大会は要請を受け持つことにして、駐車場利用者に対して、次回第37回大会では駐車場対策も選手輸送対策も中止となる説明書を配布することで、終止符を打つとの結論に至りました。

●里山の会リーフ(2010年作製)を8年ぶりに内容を一新することになる

全体の監修を大釜智光さん 村上ゆいさんに野鳥観察、植物観察と七七草摘みと草かゆを伊藤千恵子さん、魚とりなどを福井波恵さん、昆虫観察と蛍の集いを金田徹さん、小学校への総合学習支援と木津川の清掃を山田信人さん、里山音楽会を森幾久子さん、黒豆味噌づくり播川さんと鶯笠さん、弦籠つくりと全体を深田三郎さん、文化祭と展示発表会とツバメの観察会、蛇籠などを山村武正、里山農園活動を大村幸正さんが担当することになりました。追加する項目は農園栽培・蛇籠関係・燕の観察会の3本、削除は柿とり体験・田植え体験・炭焼き体験の3本が入れ替わりました。第1次印刷は城陽市緑化フェスタに間に合わせることにしました。そのほか多くの皆さんからご意見をいただけるとありがたいです。第2次、第3次と改良改善を重ねたいと思います。

●里山農園 白土山洞窟ルートの披露集会の基本方針案を検討

里山農園の休耕田からの復旧は、2006年に始めました。これまで長い間、京田辺市の中心地に旧農事試験場跡地が手つかずのまま放置されていました。里山の会がNPOに認定されて発足したのを機に、借用を京都

府農政課に申し入れたところ、NPOには借用させる法律がないとむげに断られました。そこで大村幸正氏から、水取の休耕田借用することについての快諾が得られて、第1次復旧工事を行いました。そして2009年に第2次復旧作業が始まり、仮払い機を振り回して笹竹を切り開きました。そしてハンマモアを購入して、一挙に復旧作業が進み、今日の19枚の田んぼが復元できました。15年かかりました。

そして今年と昨年、夏原グラントの資金を得て、農園の安全対策が進み、15年前からのねらいであった、白土山への探検ルートが切り開かれました。これまでオオムラサキの成虫や幼虫の発見、カスミサンショウウオの卵囊や成虫発見、もちろんレッドデータブック掲載植物の数多くの発見に里山農園の貢献は計り知れないものがあります。ノウサギや、タヌキ、ハブ、アサギマダラ、オオタカ、ノスリ、数えればきりが無い生き物の宝庫です。里山の会が全精力を注ぎこんできたのが里山農園であります。

白土山洞窟ルートの開通を記念に会員一同が顔合わせの場を開催することがなかったので11月17日を全会員が揃う場と設定いたしました。できる事なら教育棟においてお茶会の開催、そして里山農園栽培の冬野菜の間引き(ホウレンソウ、キクナ)体験、そしてサツマイモの掘り起こしと焼きいも作り、そして白土山洞窟ルート500mの踏破と自然観察の取組を起案いたします。駐車場は準備できていますので、気軽にご参加ください。里山の会の到達度をご覧ください、教育棟には里山の自然をわかりやすく成果を掲示板でお知らせいたします。この秋一番の催しに、ぜひとも多くの方々のお越しをお願いいたします。参加費無料で午前10時開演15時解散の4時間を予定しています。皆さんには弁当持参をお願いします。また当日が無理でも前日準備だけでも顔を出して活動に加わってください。お茶会は午前中と考えていますので、準備の関係で申し込みをお願いします。メールハガキ、faxで申し込んでください。(住所・氏名・メール)ご記入ください

●今年の展示出展物は

- 1：里山農園関係
- 2：中聖牛の取組
- 3：河川協力団体の取組の3テーマを中心に出展の準備をしています。

そして解説とお知らせに各種イベントを紹介する「里山の風に吹かれよう」のリーフを完成させようと頑張っています。各種展示会日程は順次お知らせいたしますので、近くのイベントにもぜひご参加ください。10月28日は城陽市緑化フェスタ・木津川公園に出展します。毎年手作りの綿菓子には長蛇の列ができるほど人気です。松傘ツリー製作も提供します。その他模擬店の出展も多くあり楽しい取り組みです。ぜひお越しください。